

第14回 議会改革調査特別委員会 会議録

日 時 令和7年8月6日（水曜日） 午後1時30分 ～ 午後2時55分
場 所 白杵庁舎議会棟 議会応接室

出席委員の氏名

委員長 伊藤 淳 副委員長 梅田 徳男
委 員 川辺 隆 委 員 芝田 英範 委 員 安東 鉄男
委 員 甲斐 尊 委 員 平川 幸司

欠席委員の氏名

（ な し ）

オブザーバー

議 長 内藤 康弘

説明のため出席した者の職氏名

（ な し ）

出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英 次長 小嶋佳希 書記 原 伸行 副主幹 工藤真里子

傍聴者

（ な し ）

協議事項

1. 議員間討議会について
 2. 議会生配信の拡大について
 3. その他
-

午後1時30分 開議

協議事項

1. 議員間討議会について

①今後の実施に向けての提案

◎事務局（原 伸行）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（伊藤 淳）

- ・議員間討議会を実施することとあわせて、今後も、議員間の討議が継続していくための型づくりも重要。型を作り、それを実証し確認することも、この委員会の役割。

○委員（意見）

- ・議会基本条例に、議員間討議の活性化に努め、政策立案及び政策提言を行うこととある。提言等を目指す方法にするべきなので、提案のあった流れは良いと思う。
- ・提案の流れは良いと思うが、政策提言に至らずとも検討を行い、今後の政策の参考となることも良しとするべき場合もある。
- ・実施しながら調整していけば良いものとなと感じた。
- ・議会改革の目的が、市民に開かれた議会を目指すのであれば、議員間討議会を通して、どのように市民に開かれたようにするのかという工夫が必要。
- ・提言に結び付けることができればという思いは、議員全員共通だがテーマによっては難しい部分もある。
- ・議論の流れは、皆で話をして取りまとめていくという提案にあるとおりの流れでよい。

○オブザーバー（議長 内藤 康弘）

- ・議員それぞれの意見は異なる。食文化をテーマに議員間討議会を行った際も、同じ事柄でも、市が行わず民間に任せるべきという意見もあるし、市が主体的に行う必要があるという意見もある。議員間の中で、いろいろな意見を発言し、議論、共有しながら、良い方向で進むようにできればよいと思う。

【協議結果】 提案のとおり実施するよう決定。議員間討議会を進める中で、政策提言に結び付けることができるよう、また、議員間の討議が引き続き行われるよう、実施方法を引き続き検討する。

②次回の実施テーマについて（『食文化』をテーマとして継続してテーマとするか）

◎事務局（原 伸行）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員（意見）

- ・議員からたくさん意見がでた。市民にいかに定着していくかの議論として、深めるべきだと思うので、食文化をテーマに継続すべきだと思う。
- ・全議員の意見を聞くことのできる、これまでになく貴重な場だった。様々な意見がでたので、継続して深めていければと思う。

- ・ 前回は、議員それぞれの意見を言っただけで特にまとめはしていない。次のテーマに変えても、時間が経過するだけで同じような内容となると考えられるので、引き続き、食文化について、市民への認知の浸透をテーマとして、議論を深めていくのが良いと思う。
- ・ 今後実施するテーマを検討する期限は、次期改選までの期間となるのか。

⇒（回答）○委員長（伊藤 淳）

- ・ 本来、議員間討議会として、1つテーマを取り扱うのであれば、1～2年くらいの期間をかけてやるべきだと思うが、次期改選以降のことはわからないので、議員間討議会の流れをつくることとその検証できることが理想。そう考えると、これから行うテーマは、約半年の間である程度の結論に至るようなものがよいと思う。
- ・ 前回、活発に多くの意見があったので、それをもとに深めていくのが良いと思う。食文化の取り組みが、市民に認知されていないと感じる。市役所の近辺では聞かれる言葉かもしれないが、離れると少し高尚な言葉に聞こえてしまう。生活が忙しくて繋がらないのかとも思う。テーマを続けるというのであれば、農業や漁業など、産業振興に紐づいていくことが良いと思う。一次産業の振興により、懐が潤うというところに掘り下げるとよいと思う。

○委員長（伊藤 淳）

- ・ 引き続き、食文化をテーマにすること、テーマを深めるため、いかに市民に周知され、それが根付いていくための方策をいかにやっていくのか。産業振興につなげ、まちの中だけの取組ではなく、市民とともに市全体に広がっていくという方向でよいか。

○事務局（小嶋 佳希）

- ・ 前回、事業内容を説明した前任者という立場と、今後の提言に向けとりまとめる事務局として両面を踏まえ、一言伝えたい。認知のことが議論となっているが、認知が進めばよいだけではなく、食文化の認知を通して、それぞれの立場で様々な食文化を生かした取り組みとして、波及させていくが重要。ユネスコに認定された部分だけでなく、元々の生活に食文化は深く関わっている。それを自分たちでも、取り組んでみよう間接的に訴えかけるためイベントをやってきた。ただ、市主導のイベントをやるだけでは、行動の喚起は難しいので、民間の方々が、小さくても自らイベント等に取り組めるようにすることが大切だと気づき、料飲店組合と組んで、小さくても民間が主導して行えるようにしたいと考えていた。食文化のテーマを深堀しても、行政に何を求めていくか、提言する内容のイメージがわからない。期間が短いのでなおさらそう感じる部分もあり、議論途中の問題提起とはなるが、それを踏まえていただいて議論してほしいと感じた。

○委員（意見）

- ・ ユネスコ（食文化）自体がわかりにくく、範囲が広すぎる。議員間討議をするのであれば、テーマ・ポイントを決めて検討すればよいと思う。前回と同じようにすると意見がでるのみとなるのでは。

- ・食文化という大きなテーマでやってみて、様々な意見がでた。この後は、ポイントを絞って深めていくべきだと思う。白杵市より先に認定された鶴岡市へ3年前に視察に行った際、鶴岡でも市民への浸透不足が課題と聞いた。行政主導だったのが原因と聞いた。市民に定着しない理由を深めていくべきだと思う。次回の議員間討議のテーマはそれだと思う。物事を変えるために、意識改革が必要となる。定着を図るためにそれが必要なので、その方法を検討すべきと思う。

○委員長（伊藤 淳）

- ・次の議員間討議会では、『食文化』を深めていくとすると、市民にいかにか定着させるか、浸透を図るためにはどうするのかというのをやってみる。方法としては、小さなグループで話し合うのではなく、議員全体で行うこととしたい。前回の議員間討議会と同様、冒頭に小嶋次長のレクチャーを受けた上で、議論を行うという方法でよいか。

◎事務局（原 伸行）

- ・前回の議員間討議会を実施する前に、執行部との関わりも議論があり、前回は、まず議会の中で話をしようということで、担当課ではなく、小嶋次長が前任者であることから説明をお願いした。今後、議論を深める中で、担当課とも関わりを持つ必要があるので、テーマが決まり、具体的な内容などの説明を聞くのであれば、担当課に依頼することも検討してほしい。

○委員（意見）

- ・執行部や次長の意見を聞くとその流れに沿ってしましそうなので、今回はレクチャーがなくても良いのではと思う。
- ・問題があったときに原因を追究することが非常に大切。小嶋次長の先ほどの発言での問題提起は同感。行政主導で、イベントをこれ以上やる意味があるのか。イベントをやった結果、市民に浸透していないと感じているなら、本当の原因は何かという、問題点を共有することは、議員も、執行部も、市民も必要。問題点がわかれば、対策が打てるから。食文化の問題点が決まっていない。まず、問題点を明確にしたいが、その場合、執行部の取り組みや執行部の考える問題点の共有も必要となる。
- ・レクチャーは、委員を対象とするのか、議員全体なのか。よりよいやり方の検証であれば、委員のみでやってみればよいと思う。

⇒○別の委員

内容が同じであれば、議員全体で1回行えればと思う。

- ・議論をするのであれば、短時間ではなく、2～3時間程度は行えるよう議論させてほしい。議員一人一人が、市民への定着を図るために、何を考えているのかを聞いてみたい。
- ・鶴岡市は成功なのか失敗なのか、担当課がどのように考えているかは聞いてみたい。白杵市と鶴岡市、認定された市が2市しかない中で、成功とするのならば、何を指標として、その判断をしているのかも併せて聞きたい。
- ・数字のことは調べれば出るが、行政視察の際に、鶴岡市の執行部から浸透が足りていな

いという言葉があった。今、白杵市でも同じ言葉が出ている状況。また、イベントはやる必要がないという声も聞いている。意見はでるが、なぜ問題なのか、何が必要なのかを検討していないことだと思う。

- ・今回大切なことは、全議員が意見をだした。初めて全員から意見を聞いた。自由な発想をもっていることが分かった。この課題に対し、取り組むべきことは、市民に対する浸透だと感じた。市民レベルでやるべきことを行政レベルでやっているという印象を持っている。

◎事務局（小嶋 佳希）

- ・イベントは盛り上がり、わかりやすいが、本質を考えると、イベントをやる意味や、どのように今後につながるかを考えてしまう。イベントの成功を目的に、一時的なものを準備するようなこともあり、通常の生業に関連するような、メニューを開発して、イベントを披露場として活用し、店に誘客するようになればと思うがそうになっていないのが現状。イベントでも実施したい人が、小さくても自ら企画する、それを行政が後方支援する形としたい。それぞれの立場で、食文化に関わる中で、市全体が食文化のまちとなるようにしたい。また、それを見た移住者が、自分もそれに携わりたいと感じるし、実際に関わることができるようなものになることで、白杵に住み、来る、体験する、関わるという食のまちをつくる。それが食文化創造都市白杵だと考えている。

○委員（意見）

- ・市民の生活に密着している佐志生の按針朝市がそれだと感じる。
- ・担当課が説明した場合、質疑はどうするのか。

⇒○委員長（伊藤 淳）

- ・前回の討議会では、質疑の時間を取らなかった。レクチャーは、情報量を揃えるのが趣旨なので。説明した内容の中で、不明があれば質疑できるようにしたい。
- ・担当課の説明後の検討については、議員の切り口で行うべき。議員としてできるのは、事業の予算化を後押しして、事業が実際に動くようなものとなれば良い。また、提言等により、事業が動き出したことについて、市民へ伝える視点も大切だと思う。
- ・市が食文化について、あるべき姿を持っているのであれば、議員に共有して、可能であればその方向で進めていければよいと思う。
- ・議員間の話が進めば、市民への浸透に関する来年度の予算要求が可能となるのではないかと。今の話の進み方であれば、議員間の討議が後3回程度は必要となると思う。11月くらいまでに討議のまとめをやれるように、次回の実施は早めがよいと思う。
- ・レクチャーでは、白杵市及び鶴岡市の課題が把握できれば。

○委員長（伊藤 淳）

- ・テーマとしては、食文化を引き続き行う。深掘りのポイントとしては、市民へ周知する、食文化を市民に分かってもらう。なぜ、食文化の取り組みが広がっていないのかという検証とどのようにすればよいのかを協議することとしたい。議員間討議会の方法とし

ては、全議員で協議する形としたい。冒頭15分程度、現状について、小嶋次長又は担当課よりレクチャーを受ける。その中で、先進地である鶴岡市の状況に触れてもらえるといい。その後、現状の原因についての掘り下げと、その対応について協議する。実施時期は、8月末から9月の初めに、議員全員が集まる機会に併せてやればと思う。

○オブザーバー（議長 内藤 康弘）

・レクチャーについては、担当課が良いと思う。今回の会議での、様々なご意見を聞きながら、感心したところ。今回の意見を、次回以降も出してもらえたら。なぜ、食文化が市民に定着しないのかは、難しいテーマ。鶴岡市は5年先輩だが、定着していないという事は、行政視察の際に聞いてきた。うまくいけば、ヒットするがなかなかうまくいかない印象を持っている。

◎事務局（原 伸行）

・次回の開催に担当課に説明をお願いするので、日程調整が必要。直近で全議員が集まる機会は、8月26日（火）の「全員協議会」もしくは、9月2日（火）の「議員ゼミナール」となるため、どちらかの日程に併せて実施できるよう調整し、別途連絡したい。

○委員長（伊藤 淳）

・担当課にレクチャーしてほしい内容があれば、事務局に伝えてほしい。レクチャーは冒頭15分間のみで、その後、担当課は退室し、議員間討議は議員のみで行うこととする。

【協議結果】 ・次回の実施テーマは、『食文化』を継続し、『食文化の市民への浸透に関する課題及びその対応』とする。

※議員間の討議前に、担当課（産業観光課食文化創造都市推進室）にレクチャー（15分程度）を受けた上で行う。

※討議会の実施日は、担当課と調整し決定。（8月26日又は9月2日）
（後日調整後 8月26日（火）13時30分から開催に決定）

2. 議会生配信の拡大について

◎事務局（原 伸行）

（ 配付資料に基づき説明（現状報告のみ） ）

○オブザーバー（議長 内藤 康弘）

・議会生放送については、実施前に議会運営委員長から全員協議会など議員全員が集まる機会の際に、関連する先例・申合わせなど、関わる部分について周知徹底をしてほしい。

3. その他

○委員長（伊藤 淳）

・現在、議員定数等調査特別委員会で市民アンケートを行った中で、議会に対し様々な意見をいただいているので、本委員会の活動に関わるような内容なものもあるので、次回以降、その内容について協議事項に加えたい。

○委員（意見）

- ・議場コンサートの進捗状況を知りたい。

⇒○委員長（伊藤 淳）

- ・12月定例会で実施するよう、西中学校合唱部と協議し、準備物についても、平川議員に調整いただいている。次回以降、協議し、日程等を決定していきたい。
- ・議員間討議会で、常任委員会の取り組みの情報共有についても、行政視察先等も決まってきたと思うので内容を聞きたい。早めの実施してほしい。

○委員長（伊藤 淳）

- ・次回開催日は、議員間討議会前の、8月25日（月）10時から実施することとしたい。

午後2時55分 閉会

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定を準用し、ここに記録を作成する。

令和7年8月6日

議会改革調査特別委員会

委員長 伊藤 淳